

# 山口県山口市の 地域交通政策について

「安心して住み続けられる  
クルマに頼りすぎない交通まちづくりを目指して」



山口市地域振興部交通政策課

2011年12月22日

# 山口市の概要



## 合併

H 1 7 . 1 0    1 市 4 町 合 併  
H 2 2 .    1    阿 東 町 を 編 入

面 積

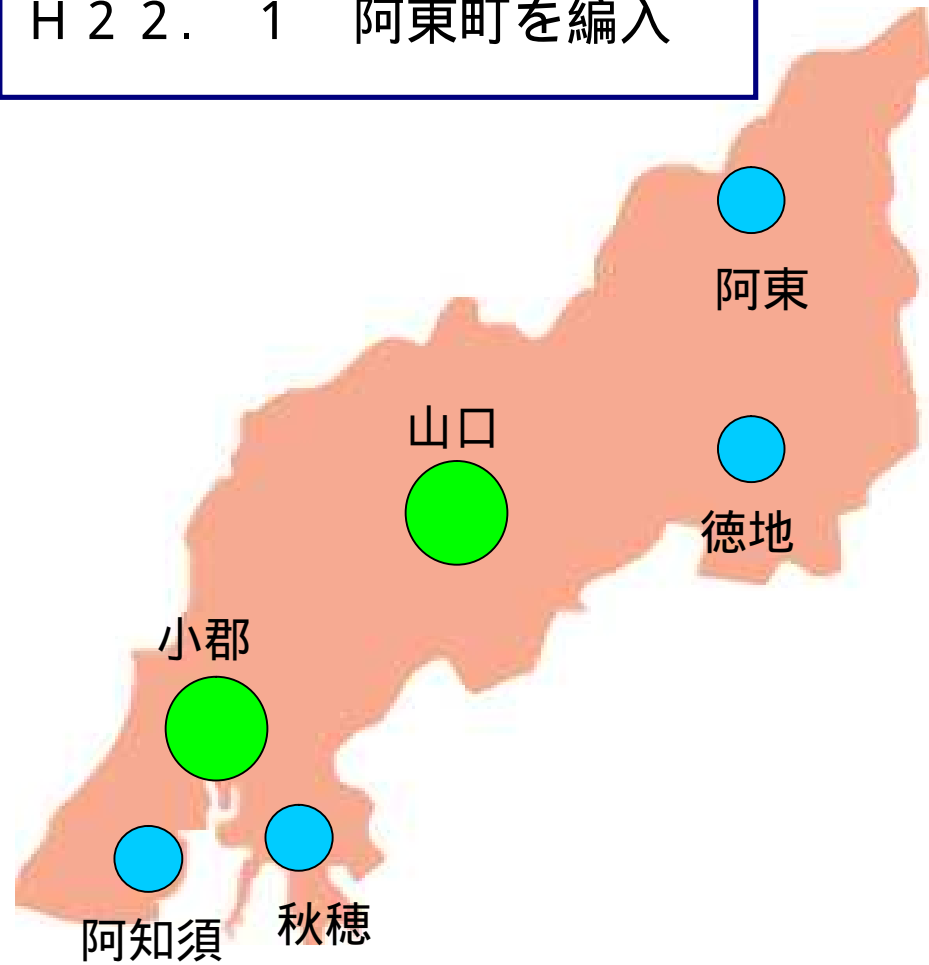
1,023 km<sup>2</sup>

人 口

約196千人

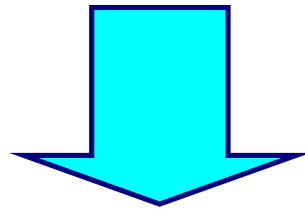
高 齢 化 率

約24%



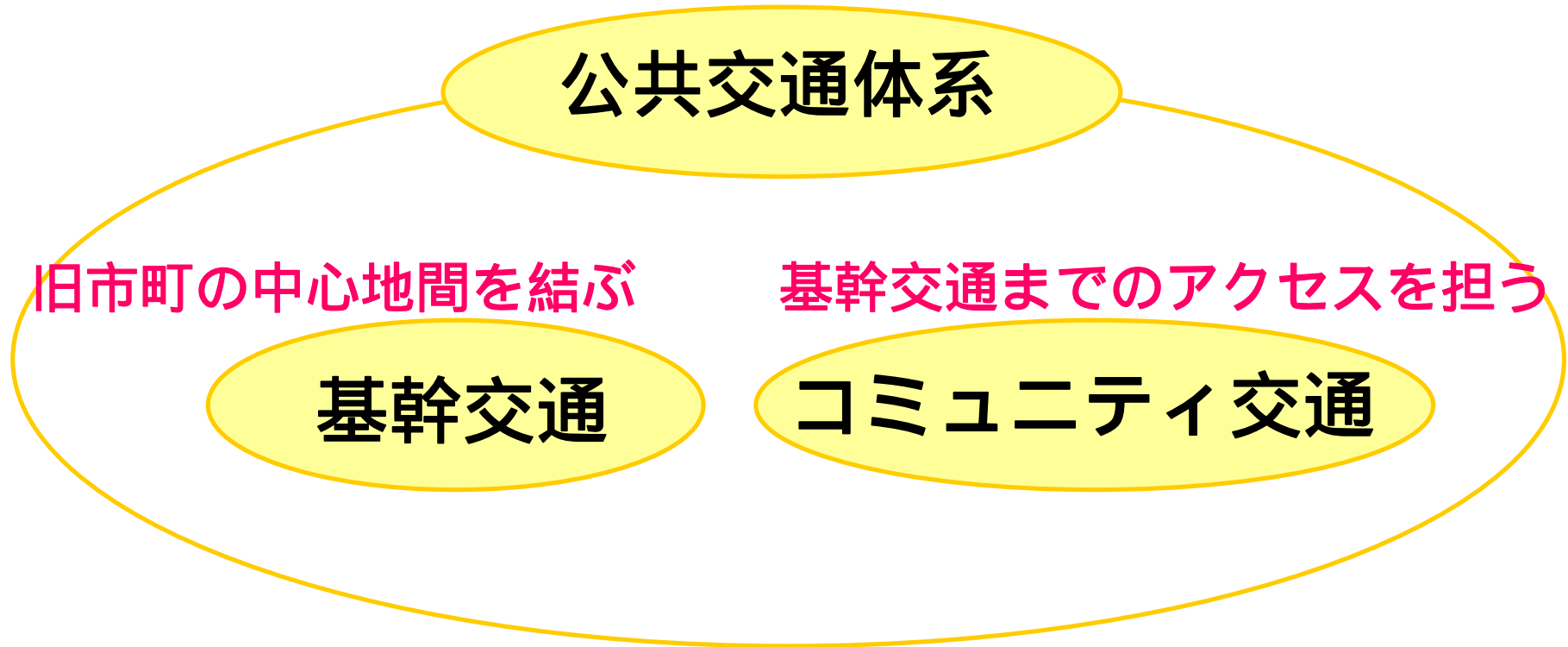
## 基本理念

創ろう！守ろう！みんなの公共交通  
～子や孫の代まで続く公共交通にしよう～

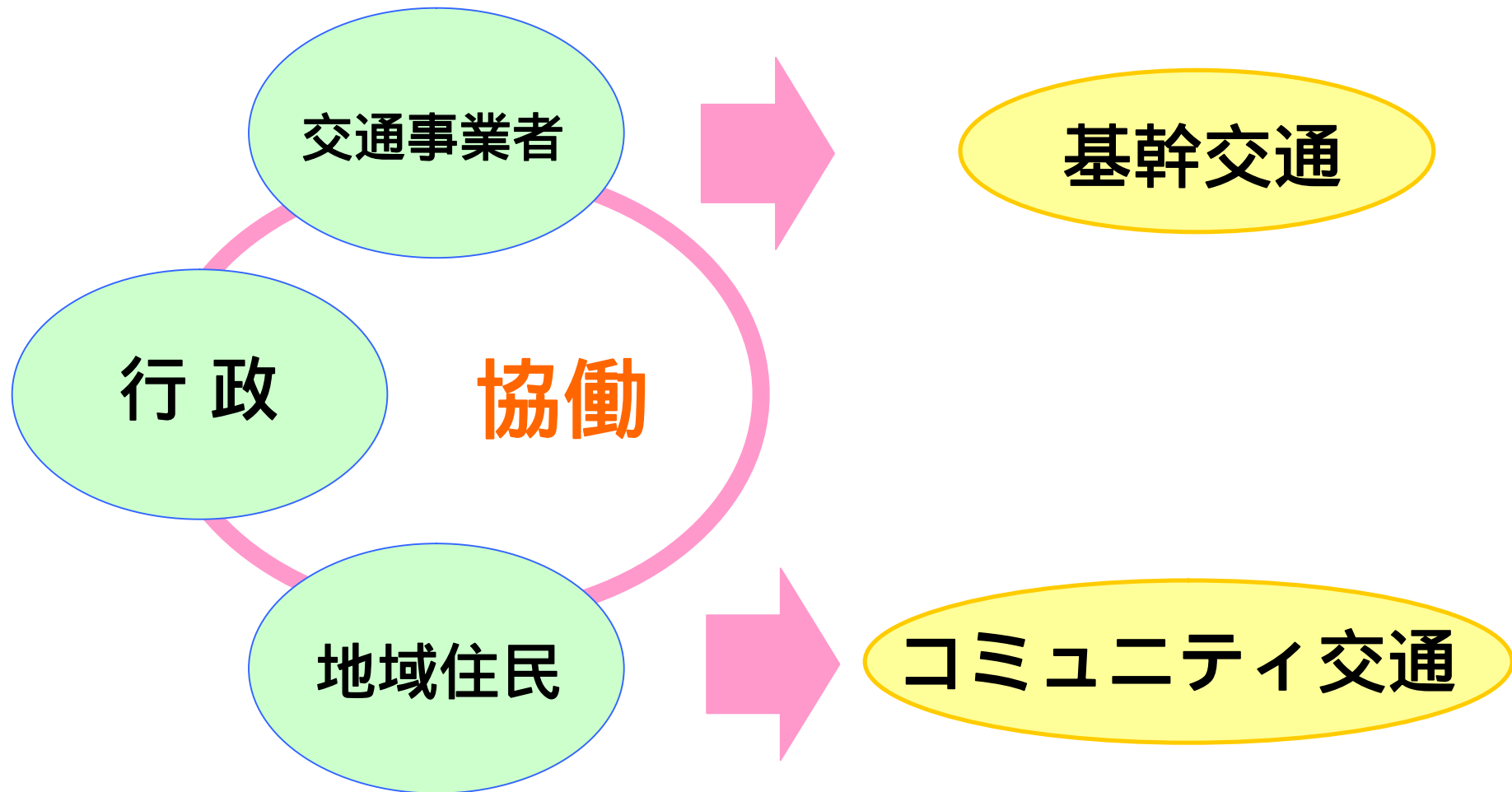


市民の移動手段は、  
交通事業者や行政のみでなく、  
市民も含め、みんなが協働して創り育てる

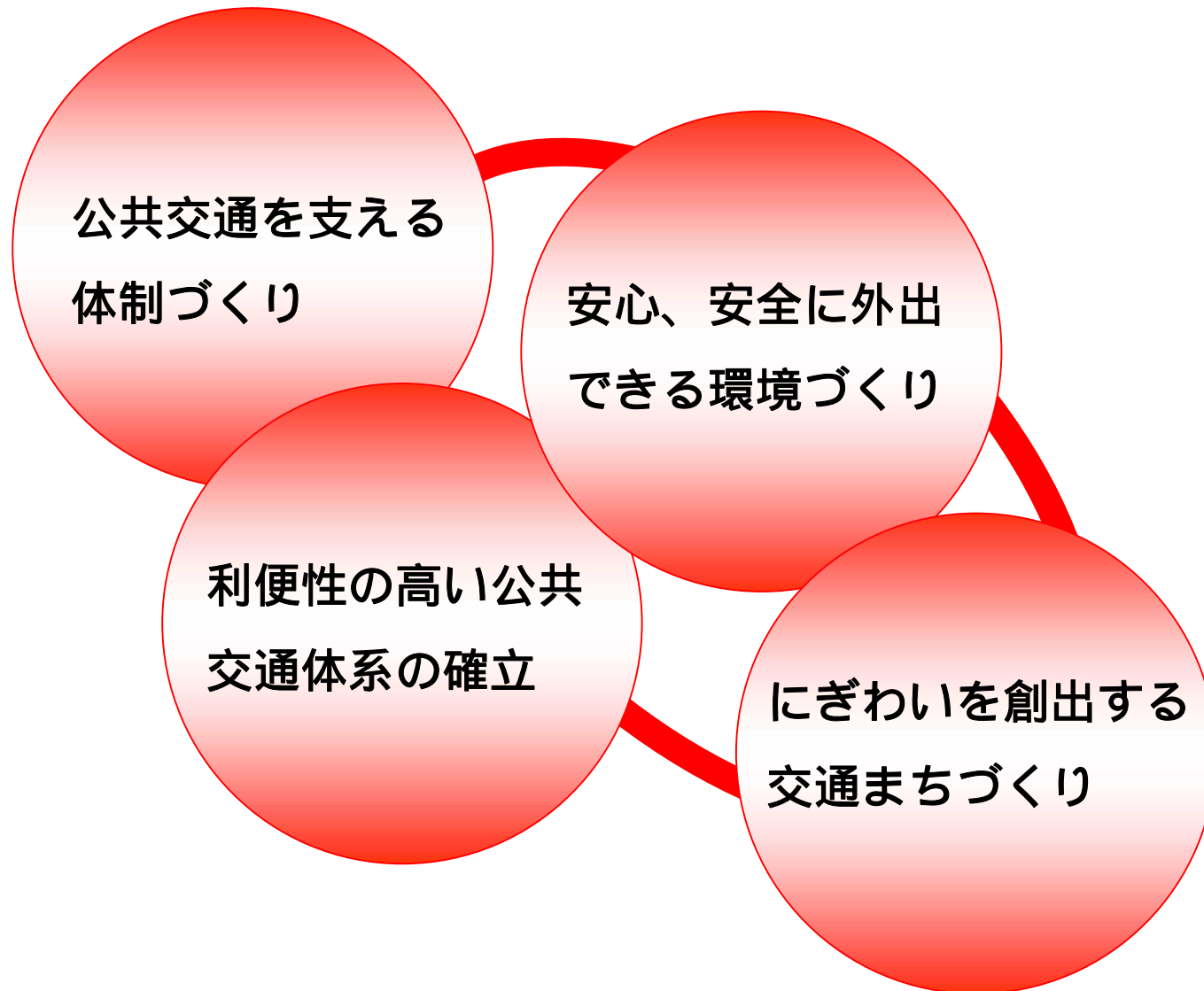
# 公共交通体系の整備方針



## 公共交通体系の整備方針



## 施策体系



# 公共交通を支える体制づくり

## みんなで守り育てる意識づくり

クルマと公共交通の上手な使い方を考えるプロジェクト

- ・ 住民や事業者を対象としたTFP
- ・ 市民公共交通週間の実施
- ・ 公共交通教室の実施

住民とともに地域の交通を考える地域勉強会の開催

市民、事業者、行政による協働推進体制の確立

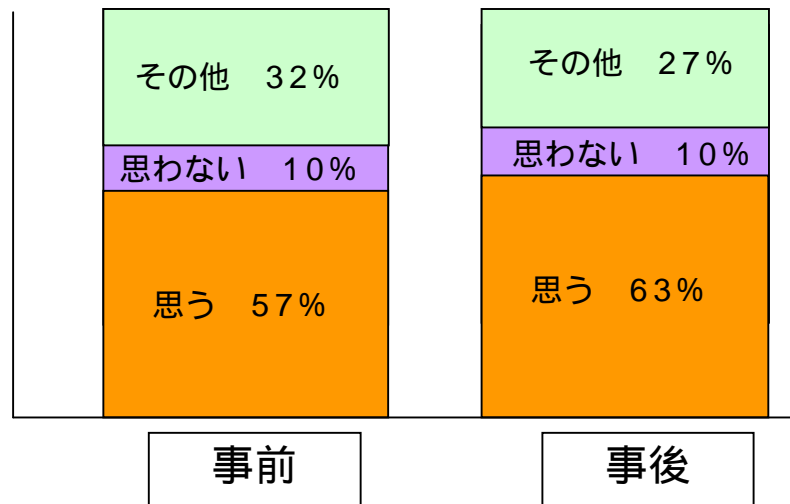
- ・ 山口市公共交通委員会の設置

## クルマと公共交通の上手な使い方を考えるプロジェクト

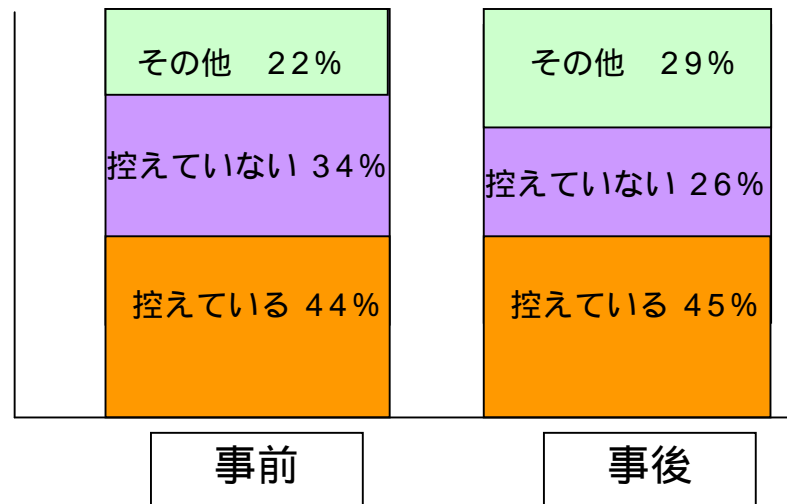
住民を対象としたTFP

- ・ 中学校区程度の範囲で、1年に1地区実施
- ・ H21、22年度で2地区約4,700世帯を対象に実施  
(有効サンプル数：245)
- ・ クルマ利用に関する意識・行動の変化

(1) できるだけクルマの利用を控えよう  
と思いますか？



(2) クルマの利用を実際に控えていらっ  
しゃいますか？



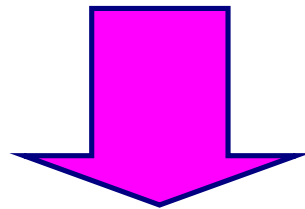


## クルマと公共交通の上手な使い方を考えるプロジェクト

事業所を対象とした取り組み

### 市民から

- ・バスを使え使えというなら、まず市・県職員が率先するべき。
- ・市中心部の朝の通勤渋滞は、市役所と県庁の職員によるところが大きい。これによりバスが遅延しており、公務員が公共交通機関の利便性を阻害している
- ・温暖化防止に向けて、行政職員はもっと積極的に行動するべき。



**まずは市役所から！**

クルマと公共交通の上手な使い方を考えるプロジェクト

山口市職員は **“エコ通勤”** に取り組みます宣言！

## 山口式エコ通勤

毎日実施が原則ですが、  
まずは、**週1回、月4回**を目標に  
実施します（実施日は、各自で設定）

実施率は60%前後で推移

## クルマと公共交通の上手な使い方を考えるプロジェクト

### 市民公共交通週間

- ・ 啓発イベントの実施（昨年度：2千人来場）  
バス車両の展示、交通事業者PRブース、バス乗り方教室等
- ・ 市内一斉ノーマイカーデー（昨年度：193事業所、3,575人参加）  
市内の事業所や一般の方に対し、ノーマイカーを呼びかけ
- ・ 啓発チラシの配布  
バス運賃半額券や飲食店割引クーポンを刷り込んだ啓発チラシを市内全戸及び主要事業所へ配布

## クルマと公共交通の上手な使い方を考えるプロジェクト

### 公共交通教室の実施

- ・ 国の公共交通活性化プログラムでマニュアル作成
- ・ 学校、子ども会、老人会等、多様な対象に対して、それぞれの学習レベルやニーズに合わせた教室を展開

### 地域勉強会開催回数

H19	H20	H21	H22	H23
75	87	87	87	51

## 山口市公共交通委員会

- ・ 地域公共交通活性化・再生法法定協議会
- ・ 山口市地域公共交通総合連携計画策定  
市民交通計画の実施計画の位置づけ
- ・ 住民代表、事業者代表、行政代表が実質的な審議を行い、事業を実施
- ・ 外部有識者のアドバイス、コーディネート

交通ジャーナリスト 鈴木文彦 氏

大阪大学教授 森栗茂一 氏

特に、交通事業者との連携が強化

# 利便性の高い公共交通体系の確立

## 機能的な基幹交通ネットワークの構築

広域交通ネットワークの強化

- ・ 新山口駅への新幹線停車本数増加促進
- ・ 山口駅から宇部空港への直行バスの運行（H23.8月実証運行開始）

都市核・地域核間交通の強化

- ・ 都市核・地域核間を結ぶ路線バスを3路線新設

## 地域にふさわしいコミュニティ交通の確保

積極的な情報発信と公平な機会の提供

## 地域主体の仕組みづくり

地域に合った効率的で利便性の高い運行計画の作成

# 地域主体のコミュニティ交通：コミュニティタクシー

宮野地域：宮野コミタク 【H20.2.1運行開始】	
沿線人口 / 世帯数	2156人 / 855世帯
運行の態様	定時定路線
運行車両	9人乗りジャンボ車両
運行日	月、水、金
運行便数	6便/日

島地地域：藤木おたっしゃ号 【H22.4.1運行開始】	
沿線人口 / 世帯数	400人 / 170世帯
運行の態様	区域（デマンド）
運行車両	9人乗りジャンボ車両
運行日	月～金
運行便数	6便/日

小郡地域：サルビア号 【H19.12.25運行開始】	
沿線人口 / 世帯数	3778人 / 1489世帯
運行の態様	定時定路線
運行車両	9人乗りジャンボ車両
運行日	月～金
運行便数	8便/日

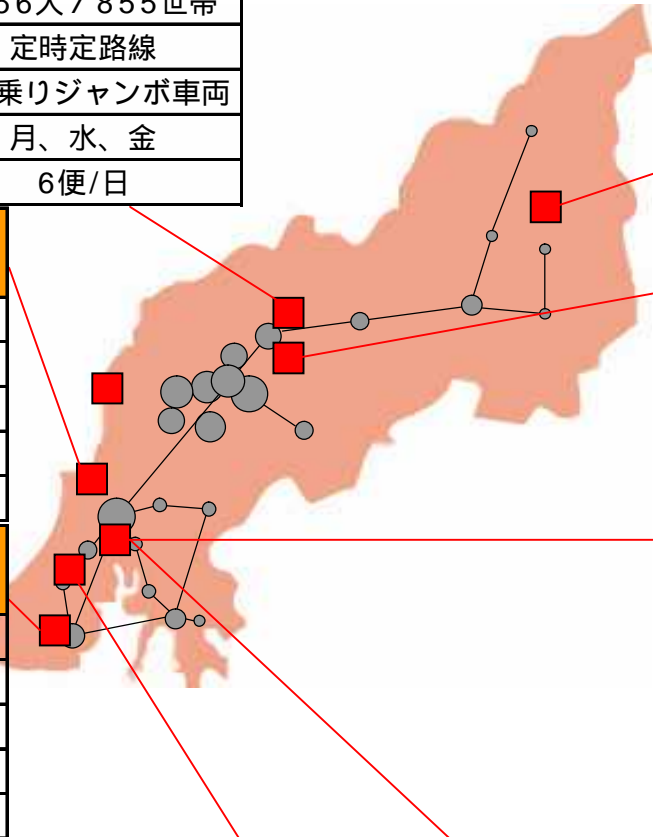
小鯖地域：小鯖コミタク 【H20.2.25運行開始】	
沿線人口 / 世帯数	894人 / 375世帯
運行の態様	定時定路線
運行車両	5人乗りセダン車両
運行日	月、水、金
運行便数	4便/日

阿知須地域：あじす きららコミタク 【H20.10.1運行開始】	
沿線人口 / 世帯数	9316人 / 3605世帯
運行の態様	定時定路線（一部デマンド）
運行車両	4人乗りセダン車両
運行日	月～金
運行便数	2系統13便/日

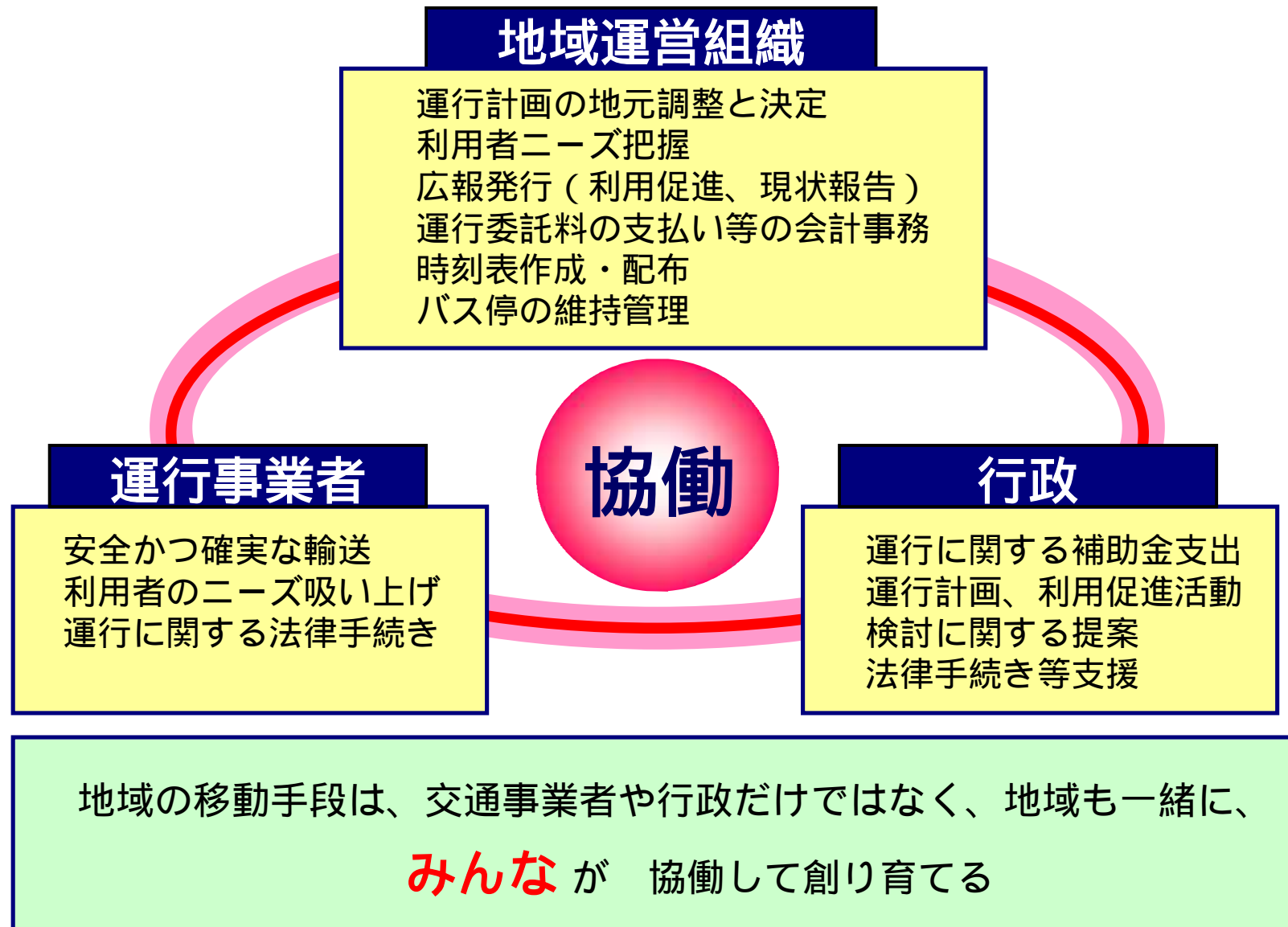
秋穂地域：菜の花号 【H20.2.26運行開始】	
沿線人口 / 世帯数	2836人 / 1077世帯
運行の態様	定時定路線
運行車両	9人乗りジャンボ車両
運行日	月、水、金
運行便数	2系統2便/日

佐山地域：ふれあい号 【H20.10.1運行開始】	
沿線人口 / 世帯数	2942人 / 1124世帯
運行の態様	定時定路線
運行車両	4人乗りセダン車両
運行日	月、水、金
運行便数	2系統12便/日

嘉川地域：みんなでGO！ 【H20.1.26運行開始】	
沿線人口 / 世帯数	583人 / 220世帯
運行の態様	定時定路線
運行車両	4人乗りセダン車両
運行日	月、水、金
運行便数	7便/日



## コミュニティタクシーの運行モデル





## コミュニティタクシー運行の仕組み



### 本格運行基準

市からの補助を受けるためには、下記の基準を3年以内に達成することが必要。ただし、3年連続で達成できなかった場合も、市からの補助は打ち切りではなく、補助上限額までの補助を行う（上限額以上の赤字補填はなし）。

**乗車率 30%以上**（1便あたりの乗車人数 ÷ 使用車両の定員）

**収支率 30%以上**（年間乗車人数 × 正規運賃 + 協賛金） ÷ 運行委託費）

運行地域内に生鮮食料品を買い取る商店または日常かかりつけることのできる医療機関がない場合は、収支率を5%緩和

# 利便性の高い公共交通体系の確立

## コミュニティタクシー運行の状況

### 実証運行実績

地域名	小鯖	宮野	嘉川	小郡	秋穂	佐山	阿知須	島地
使用車両	ジャンボ	ジャンボ	中型	ジャンボ	ジャンボ	小型	小型	バス車両、小型
1便あたりの乗車人数	1.9人	1.3人	1.9人	4.4人	2.3人	1.0人	1.9人	2.6人
1月あたり	144人	119人	190人	730人	173人	187人	576人	265人
乗車率	22%	14%	38%	49%	26%	25%	48%	22%
収支率	28%	27%	25%	35%	38%	13%	20%	32%

### 運行改善、利用促進で効率的で利便性の高いコミュニティタクシーへ

#### 停留所、車体表示の改善

停留所のデザイン、車体表示を改善し、認知度向上



#### おでかけツアー

コミタクと路線バスを乗り継ぐおでかけツアーを実施



#### 協賛演歌コンサート

認知度向上のため、演歌コンサートやカレンダー作成



地域の老人会やお祭り、選挙時に臨時便を運行

コミタク通信を発行  
回数券購入者にプレゼントをするキャンペーンを実施  
車内でヒアリングして生の意見を聴取

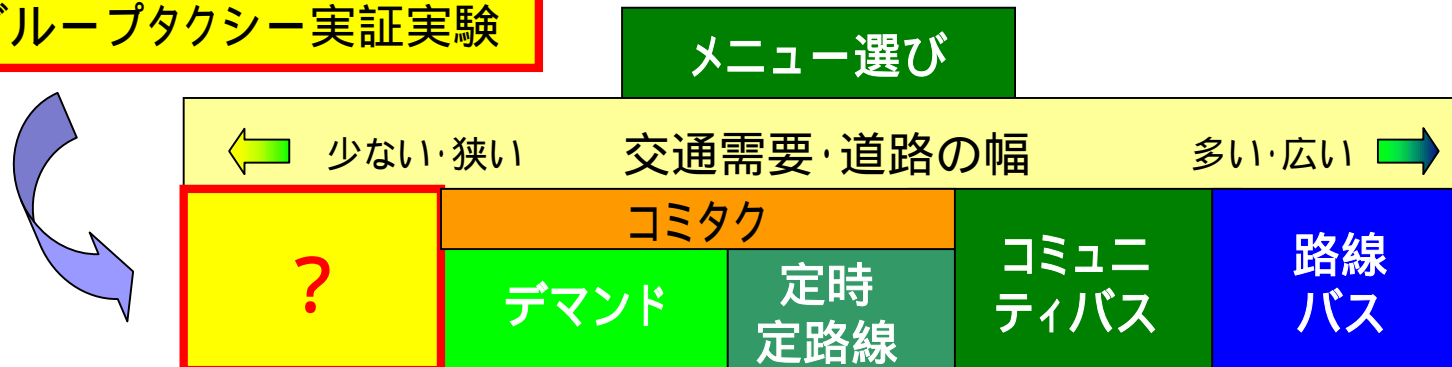
### 平成22年度実績

地域名	小鯖	宮野	嘉川	小郡	秋穂	佐山	阿知須	島地
使用車両	中型	ジャンボ	中型	ジャンボ	ジャンボ	小型	小型	平成22年度 運行開始 につき 実績は 上記実証運行
1便あたりの乗車人数	1.6人	2.6人	2.8人	5.7人	4.0人	1.5人	2.8人	
1月あたり	96人	189人	233人	933人	195人	213人	735人	
乗車率	32%	29%	56%	63%	44%	38%	70%	
収支率	17%	36%	27%	30%	31%	28%	27%	

## コミタク検討の中から生まれた施策：グループタクシー

コミタクは、一定の人口規模（需要）のある地域でなければ効率的な運行が困難  
 山口市には、小さな集落が散在しており、こうした地域の移動手段確保策が必要  
 一般タクシーを共同利用する仕組みづくりを目指して、タクシー利用券を交付する  
 実証実験を実施

### グループタクシー実証実験



目的	グループで一般タクシーを共同利用する仕組みづくり
対象	交通不便地域(公共交通機関までの距離が1.0km以上にお住まいの65歳以上の高齢者)
利用方法	1乗車につき、1人1枚のみ使用できる(乗り合わせるほどお得) 利用券【1.5km以上】500円券×60枚 【1.5km未満】300円券×60枚